

「もとはこちら」のお話し

№54 今月のテーマ 売れない饅頭屋



ある日の勉強会の先生

正しい自己反省は 不幸を幸福に換える 特效薬

(平井謙次作 日めくり カレンダーより)

ある日の勉強会です。

北原ゆり筆

「ちよつと聞くけどね、もしもよ、もしもあんたが誰かの事が好きで、何かにつけて応援してるとするよ。その人が幸せになります様に、うまくいきます様に、常々思っている。」

それで、例えば相手が手作りの饅頭屋だったとする。時々はその饅頭をどさっと買いこんで、自分が食べるだけじゃなく、友人知人にも配ったりする。

それで、『ちよつと甘すぎるんとかがうか』とか、『あんこの量、もうちよつと多い方がいいのとかがうか』という様な客の声を饅頭屋に届けたとする。

そしたらその饅頭屋、怒ってしまっただけ、『なんちゅう事いふんや。ひとの饅頭にケチつけるな』と。そして饅頭を改良する方向にはいかんと、あんたに向かつて、『二度とうちの店に来るな』と。そしてあつちこつちに行つて、ある事ない事、あんたの悪口を言い振らしているらしいと、まあこつこついう訳や。

さて、もしもあんたが、あんたはその饅頭屋をずっと応援してた人やで。そのあんたがそんな目にあつたとしたら、さあ、どうする？ ね、あんたはずっとその饅頭屋を応援してきたんよ。昔からの友達や。経営苦しい、今にも店が潰れそうやと聞かされている。なんとか助けてやりたいと、饅頭いっぱい買ったんよ。それが、二度と来るなと言われて、あちこちで悪口言い振らされると分かった時、あんただつたらどうするか、という事よ」

「ね、あんたら私に聞かれて、そうやなあ・・・と、いま頭で考えてるやろ。頭で考えた事じゃなく、実際にどうするかという事を、私、尋ねてるんよ。

どうするかと言つたらね、先ず殆どの人は、怒るわな。

ものすごく怒つて腹を立ててね、『おのれクソ、人が今までこれ程までも応援してやつてたのに、恩知らずにも程がある。赦せん』と、こつこつ言わん？ 『今までアイツのこと応援してやつて、損した』と、こつこつ言わん？ それから下手したら、その饅頭屋のこと、悪口言つ方に回らん？ 間違いなく殆どの人はそうなる。

それまで友人やと思つて応援してきてた分だけ、よけいに相手の事を赦せんと思ふんよ」

まずかったと反省

「しかしね、向上する人は、そうはならん。そうか、私の応援の仕方がまずかったんやな。えらい、すまん事や、ところなる筈よ。そして、確かにあいつの饅頭、まずかった。まずくて高いから客もつかんで、それで店も潰れそうになってる訳やけど、私のやり方もまずかったなあ、と、こう反省するんやね。」

それからね、ひとの善意も分からんと、饅頭屋があちこちに悪口を言い回っているらしいという事は気にも留めんと、現実は何をするかというたら、どうしたらその饅頭屋が立派な饅頭屋になるか、店を繁盛させる為にはどうしたら良いかという事を、今まで通りに真剣に考える。しかし、これからは今までみたいに、饅頭を買って知り合いに配るといふ様な事は、一切せんのやね。饅頭を買って配るそのやり方は、恩着せがましいと相手には映った訳やからね。第一、出入り禁止やから買うにも買えん(笑)。

だからこれからは、表立つての、相手にそれと分かる様な応援は絶対にせん。あくまでもどこまでも陰になつて、相手に分からん所でそつと見守っていく。従来通り応援し続けていく。

~~~~~

ね、これ聞いて殆どの人が、『そんなあほらしい事、できるか』と、言うんやね。『人がいいにも程がある』と。そして、『ちよつと頭、おかしいのと違うか』と言うんやね。

ね、殆どの人は、自分が応援してた人から、感謝されるどころか反対に悪口を言われてると聞いただけで、それが本当かどうかを確かめもせんと、先ず怒ってしまふわな。そしてそれまでの態度を豹変させて、『あの饅頭屋、赦せん。友達でもなんでもない。あんな饅頭屋、潰れてしまえ!』と、こうなるんやね」

## 上人、落ちる人

「饅頭屋の事は放っておいたらよろしいんや。」

饅頭屋は饅頭屋で、自分の事を考えたらよろしいんやね。

あんたが考えるべき事は、そんな目に遭つた時に、さあ、自分がどうするかという事よ。



現実にはここで腹を立ててしまつて、相手を憎んで相手の不幸を望むような、そんなつまらん人間に成り下がる者が多い。相手から感謝されれば応援者になるけれど、悪口言われているとなつたら話は別やと言つて、今度は相手の不幸を望むような鬼になる。

しかしそんなのは、求道者でもなんでもない。只の俗人や。

相手の思いや行為に関係なく、自分は仏の道一本で行くというのが求道者よ。それが、もとはこちらという自然の摂理を学んだものの取るべき態度よ。もとはこちらという事は、主体者は自分だという事よ。だから少なくとも私ら道を求めようとするとする者は、どんな時であつても、また相手が何であつても、常に自分がどういう道を歩むかという事だけが問題なんだよ。

自分自身が向上浄化し、幸せになる為には、どつちの道を通るかという事ね。人の不幸を喜ぶような墮落の道を行く人になるか、人の幸せを望み喜ぶような、向上する道を行く人になるか。それを決めるのは自分自身という事よ。そして私ら、どつちの道でも選べるわけですよ。どちらでも選べるという自由が、与えられている。

私らね、どんな中でも修行はできる。できはするが、しかし本当はこういう時こそ、本当の深い修行が出来るんですよ。

但し、自分が向上する方の道、即ち、今まで通りに饅頭屋を応援する道を選んだとしても、そのやり方は変えなあかんわな。今までみたいに饅頭買って皆に配るといふようなやり方は、もうやれん。なんせ、出入り禁止やからね(笑)。だから同じ応援をするにしても、今までよりも、もっと知恵や工夫が求められるわけや。

相手はなんせ魂、幼いんや。人の善意も分らんし、饅頭作る腕も悪けりや、その饅頭を売る営業力もない。あるのは変なプライドだけや。そんな人を陰で支えて応援し、見守っていくというのは、並みや大抵じゃない。その並みや大抵でない道を通るといふのは、普通の人にはなかなか出来んわな。出来るとしたら、それは神さんや」

「な、神さんって考えたら、私らの事、いつもいつも見てくれているんですよ。『神も仏もあるもんか』って皆よく言うけど、何言われても力二言われても、お構いなしや。『そうか、これだけ応援しても、それでもあかんのか。それだったら、一回自分の好きな様にやってみるか？ 思う様にやってみて、まあ店をつぶすというの、一つの方法や。そしたらもうちょっと賢くなるかもしれないわな』と。その饅頭屋、今度はあんこに挽肉を混ぜたような、変な饅頭を売り出したと人づてに聞いた。まあそれも宜しいわな。色々やってみて、何回も何回も失敗して、そこで初めて本当のことが分かってくるかもしれないし、それでもまだ分からんかもしれない。それでも、それならそれで、宜しいんやね」

「ところでね、皆さん、この話、饅頭屋の話やと思って聞いてたらかんのよ。多かれ少なかれ、自分らもこの饅頭屋の様な事をやってないかと言っているのよ。一生懸命に応援してくれている人のこと、足蹴(あしげ)にしてないか？ 本当は恩人やのに、包丁で切り付けるような事、やってないか？

文句も言わず、値切りもせんと、まずい饅頭を沢山買ってくれる人は、良いお客さんやと有り難がる。しかしひと言でも文句言うたり値切ったりするような客は、とんでもないけしからん奴で、客でも何でも無い、二度と来るな、と言って追い返す。

『この饅頭まじいな。もうちょっと美味しく出来んのかい』とか、『高いなあ。よその店はもつと安いよ』という様な事を言ってくれる人こそが、本当は、より有り難い客かもしれないわな。ところがそれが分らん。そんな事だから潰れそうにもなる訳よ。しかしまあ殆どの人がこの程度のもんよ。厳しいけど本当の事を言ってくれる人を嫌って遠ざけようとする。或いは、恩着せがましいと言って避けようとする。本当はみんな、自分にとつては掛けがえのない恩人なんです。私ら如何にして、そこに気付いていくかという事よ」

小智才覚を捨てて 愚者になれ  
「それでね、もしもあんたが、相手から感謝されたくてそれまで応

援してきたのだとしたら、そんなものは応援でも何でも無いよ。感謝されたいという事は、見返りを求めている、という事と同じですよ。応援というのは、見返り求めてするもんじやない。だから感謝なんてものは、されて良し、されんでも良し。

親が子を育てるのは、見返り求めている事じやない。

ただひたすらに子供の成長を願い、子供の幸福を祈る。嫌われようが煙たがられようが、親は子供の幸せだけを考え、祈り願う。そのような、子を思う親の心そのままに、相手の幸せだけを求めていく。相手の喜びを我が喜びとする。どこまでも相手に対して仏になり、菩薩になる。それが求道者というもののよ。

求道者になるという事は、生半可な事じやない。感謝されながら応援するという様な事なら、誰でもできる。感謝どころか、罵倒(はとう)されながら悪口言われながら、それでも相手の幸せを思つて陰で応援していくというのは、なかなか出来る事じやない。特に、利にさといというか、賢い人には出来ん事よ。だから人間、アホにならんかね。小智才覚を捨てて愚者になれと。最高の愚者とは、至高なる人の事です」

~~~~~

「皆さんには、菩薩行をせよ、とは言わん。菩薩行とまでは言わんから、せめて饅頭屋になつた時、『まじいなあ、高いなあ』とケチを付けてくれるお客さんがいたら、その人こそ大事にして素直になれと言つたのよ。勿論、おいしいな、安いなと言つて買ってくれる人も、大事にせなあかんわな。大事にするという事は愛想笑いの事やない。そんな事はせんでもいいから、如何にして美味しい饅頭作るか、また如何にして良い物を安く売るか工夫、努力をしないさいよ、と。そうしたらどうなる？ 安くて美味しい饅頭ができるやないか。嫌でも饅頭屋、繁盛するやないか。

だからね、気にいった事を言ってくれる客よりも、どつちかと言つたら、気に入らん事を言ってくれる客を大事にせよと言つてゐるんですよ。

しかし魂の幼い者ほど、それが分からん。ちよつとでも気に入ら

ん事を言われたら、『自分は被害者や。被害者は正しくて、相手は悪くて敵や』と言う。そして自分の道をどんどんと狭くしていく。逼迫（ひっぱく）していく。しかしその原因が自分にあるという事が分かるんです。そしてまた誰かを敵に回して、いよいよ行き止まりの道に入っていく。うといんだよね」

素直さが一番

「成長していく人、本当に向上して行く人というのは、敵はつくらのよ。なぜか？」
それは素直という事を知っているからや。



まずくて高い饅頭をいっぱい買ってくれる人にも素直に感謝する。高いなあ、まずいなあと文句を言うてくれる人にも、素直に感謝する。素直に感謝をするという事は、敵をつくる行為じゃないわな。魂が幼いこの饅頭屋みたいな人は、素直さに欠ける。そして敵をつくる。最後は自分を応援してくれている人まで、敵に回す。よほど出来の良し神さんみたいな人だけが、それでも応援し続けてくれるけど、普通の俗人だったら、おのれクソとなるわな（笑）」

「私らね、『おのれクソ』って言うたらあかんのよ。そんな目に遭った時も、おのれクソって言うんじやなく、陰ながら饅頭屋の幸せを祈って応援し続けていく。私らはそういう人間を目指していかなあかんのや。」

しかし現実には、我々俗人にはなかなか出来る事じゃない。それでもその道を行けば、誰でも必ず向上し、浄化され、いずれは人間界をも卒業できるようになる。なぜか。これこそが、菩薩行だからだよ。相手から何と言われようが、感謝されようが、のしられようが、そんな事はお構いなし。自分の事は放っておいて、無条件に相手の幸せを祈り、願ひ続ける行いを、一般に菩薩行というけど、素直になってもとはこちらに徹すれば、それはそのまま

菩薩行をしているという事になるわけですよ」

「しかしね、ここでもう一度原点に帰って、よくよく考えてみて下さいよ。そんな大変な道を歩ませ、こんな至らない私を向上させ、浄化の道を歩ませてくれているのは、一体誰かという事よ。」

それは誰でもない、そのどうしようもない饅頭屋でしょうが。だからね、彼の作ったそのまじい饅頭にけちをつけてくれるお客さんと、私にとつてのこの饅頭屋はね、全く同じ事なんですよ。

私にとつては、彼はものすごく有り難い恩人なんです。相手が到らなければ到らないほど、私を向上させてくれる恩人なんです。大恩人。

分かりますか（笑）」
~~~~~

「はい、それでは今日の話はここまで。どうも有り難うございました。お茶を頂いて、それからそこにある饅頭、誰が持ってきてくれたのかな。美味しいかまずいか分らんけど、皆で分け合って、ありがたく頂戴致しましょう。食べ物のお命を頂く。作って下さったここかの饅頭屋さんの、そのお心を頂く。買ってきて下さった方のお気持ちも頂く。本当に有り難いことや。感謝しながら、では、頂きましょう」

### 【ご案内】

六月の勉強会は、六月四日（土）午後七時からです。  
次回は、七月二日（土）午後七時からを予定しております。  
皆様のご参加を、お待ちしております。（参加費無料）

尚、勉強会及び月報に付いてのお問い合わせは、  
左記資料編集部まで

HP <http://www.motoha-kochira.com>  
メール [dat33@motoha-kochira.com](mailto:dat33@motoha-kochira.com)  
電話 073・461・6300 北原友也

月報発行人 もとはこちら会 資料編集部 北原友也